フィールド（現場）からの風 687

宮田守男

地域文化を活用した観光ステージが求められる

3日の節分になぜ豆をまくのか知らない人も多いが、民俗事典には豆は「魔目＝魔滅」に通じ、強い生命力とパワーを秘めると信じられてきた。特に炒った豆は「魔目を射る」として鬼退治には欠かせないとある。多くの外国の皆さんに日本の文化を伝えるためにも日本人自らが日本の文化を学ぶ必要があるのだろう。インバウンドのお客様が恵方巻を競うように買い求めている。恵方巻文化が海外で当たり前のように展開されたら、ますます多くの食材の購入が海外に買い負けしてしまうのか心配になる。

2月1日、大町市文化会館大ホールで開催された「第30回折弁カラオケグランドチャンピオン大会」を鑑賞する。主催は大町魚介類加工事業協同組合「折弁」。カラオケはアニメと同様、日本から世界に広まったサブカルチャーだ。毎月第4金曜日にカラオケ大会が開催され、この大会上位3名、年合計36名が参加するのがこのグランドチャンピオン大会だ。出場者は歌唱力を引き立たせる曲を選びプロ顔負けの歌唱が会場を包み込む。大会の積み重ねは多くの困難や課題もあったに違いないが、改めて「折弁」の皆さんに心からの感謝を伝えたい。近年カラオケスタイルも大きく変化している。小さな1人カラオケ用ボックスやスマホで気軽に歌えるカラオケアプリも人気だが、食事や会話を楽しみ座敷で展開される食事スタイルは日本文化そのものだ。

折弁の名前のルーツは平安時代まで遡る。響膳、幕の内弁当など日本の食文化と深い関りがある。「折弁」が日本文化を語り継ぎたいと思ってのカラオケ大会開催は素敵な接点だと考えてしまう。

一民間業者の地域振興を視野に入れた企画と継続する努力を、大町市の文化財産と位置づけ支援する体制が求められている。大北地域を訪れる海外からの日本文化を求める客層にどの様なアピールが可能なのか。郷土料理・地酒を楽しみ、カラオケ文化を楽しめる環境は魅力的な観光素材となるのだろう。海外の観光でもオプショナルツアーは、数多くある。訪れる地域では今後文化薫る企画は増々要望されるだろう。大町ならではの観光ステージの創設は一民間業者だけでなく地域全体で取り組む意識が必要だ。その基盤を作り続ける折弁の皆さんの想いが続くよう願ってやまない。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

大町市大町東町に所在する「折弁」毎月の大会は長野県内外、各方面からの多数の参加者が熱い戦いを繰り広げる